

平成28年 第1回定例会

苫小牧港管理組合議会会議録

平成28年2月4日開催

苫 小 牧 港 管 理 組 合 議 会

平成28年 第1回定例会
苫小牧港管理組合議会

平成28年2月4日（木曜日） 午後1時37分開会

○本日の会議に付議した事件

日程第1 会議録署名議員の指名について

日程第2 会期の決定について

日程第3 諸般の報告について

日程第4 議案第1号から議案第5号について

議案第1号 苫小牧港管理組合議会の議員等の公務災害補償等に関する条例及び苫小牧港管理組合職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例について

議案第2号 平成27年度苫小牧港管理組合一般会計補正予算（第2号）について

議案第3号 平成27年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計補正予算（第2号）について

議案第4号 平成28年度苫小牧港管理組合一般会計予算について

議案第5号 平成28年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計予算について

日程第5 一般質問

○出席議員（10人）

1番	沖田清志君	6番	中山智康君
2番	川尻秀之君	7番	藤田広美君
3番	越川慶一君	8番	松尾省勝君
4番	田中芳憲君	9番	板谷良久君
5番	谷川芳一君	10番	神戸典臣君

○説明員出席者

管 理 者	岩倉博文君
専任副管理者	柏葉導徳君
副 管 理 者	佐藤裕君
総 務 部 長	平田利明君
施 設 部 長	尾崎精一君
港湾振興室長	浅井孝人君
港湾振興課長	猪狩康博君
総 務 課 長	高木浩君
業務経営課長	松原敏行君

計 画 課 長	平 山 雅 樹 君
施 設 課 長	山 下 和 幸 君
会 計 管 理 者 兼 出 納 室 長	成 田 勉 君
総 務 課 長 補 佐	木 澤 直 子 君
業 務 経 営 課 長 補 佐	山 崎 直 人 君
施 設 課 長 補 佐	三 田 弘 志 君

監 査 委 員	飴 谷 長 藏 君
監 査 委 員	松 井 雅 宏 君
監 査 委 員 事 務 局 長	戸 村 真 規 君
監 査 委 員 事 務 局 主 幹	桐 木 賢 君

○事務局職員出席者

事 務 局 長	高 木 浩 君
庶 務 係 長	木 澤 直 子 君
議 事 係 長	田 中 亮 太 君
書 記	田 村 慎 一 君

○開会

○議長（神戸典臣君） これより、本日をもって招集されました平成２８年第１回定例会を開会いたします。

○開議

○議長（神戸典臣君） それでは、本日の会議を開きます。

○会議録署名議員の指名

○議長（神戸典臣君） 日程第１ 会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第８５条の規定により、議長において、中山智康君及び藤田広美君を指名いたします。

○会期の決定

○議長（神戸典臣君） 日程第２ 会期の決定を議題といたします。

本定例会の会期は、本日１日間といたしたいと存じますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認めます。

よって、会期は、本日１日間と決定いたしました。

○諸般の報告

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第３ 諸般の報告を行います。

監査委員より、平成２７年度９月から１２月までの現金出納検査の結果の報告がありました。

既に配付しております諸般の報告に、報告書の写しがございますので、御覧ください。

○管理者挨拶

○議長（神戸典臣君） 次に、議案の審議に先立ちまして、管理者から発言を求められておりますので、これを許します。

管理者、岩倉博文君。

○管理者（岩倉博文君） 私からは、平成２８年度の苫小牧港の港湾運営に対する考え方や港づくりに臨む所信と施策の概要を申し上げます。

昨年は、庁舎の移転をはじめ、苫小牧港管理組合設立５０周年及び中国秦皇島港との友好港締結３０周年の記念行事を、皆様のおかげをもちまして、滞りなく行うことができました。

苫小牧港を取り巻く環境は、絶えず変化をしており、昨年、苫小牧港では、新たな国際コンテナ航路の就航や既存航路の休止がありました。また、相次いで、国内定期航路の船舶が大型化さ

れ、今後も新造船にリプレイスされる予定も伺っております。

昨年、フェリー火災事故により欠航しておりました1便につきましては、昨日から運航が再開しております。

また、本年3月26日に予定されております北海道新幹線開業や平成28年度着手予定であります北海道縦貫自動車道の苫小牧中央インターチェンジの設置によって、物流、人流が活発化するものと考えております。

苫小牧港西港区の臨海部では、木質バイオマス発電事業において、昨年、海上輸送の実証実験が行われ、今年の12月の稼働を目指していると伺っております。

苫小牧東部地域では、相次ぎメガソーラー発電所が営業を開始しており、本年、そば製粉工場が操業を予定し、また、ホームセンター企業が流通センターの建設に着手予定など産業の動きが活発化しております。

さらに、北海道では、道産食品輸出額1,000億円、並びに2020年を目途にした外国人観光客300万人と数値目標を掲げており、道内の関係企業・団体の取組も活発化しております。

このような動きは、今後の地域経済の発展に寄与するとともに、本港の利用拡大に繋がるものと期待しているところでございます。

さて、平成27年の苫小牧港の取扱貨物量は、速報値ではありますが、1億503万4,000トンとなり、3年連続で1億トンを超えております。

道内と本州を結ぶ定期航路では、フェリーの減便に伴いフェリー貨物が減少いたしましたが、近年、船型の大型化が進んでいるRORO船による貨物量は増加しております。

外国貿易では、飼料原料や原油、石炭が前年を上回る輸入量となり、重油の輸出量も増加しております。

我が国の経済は、中国をはじめとする新興国経済の景気減速や円安、原油安などの影響はあるものの、国の経済財政政策の推進によりまして雇用・所得が改善し、景気は緩やかな回復基調が続いているものと受け止めております。

平成28年度の道内経済は、公共投資が引き続き厳しい状況に変わりはないものの、雇用・所得の改善のほか、北海道新幹線開業に伴う道外客の増加やインバウンドによる効果が期待されるなど、明るい見通しが出てきているところでございます。

こうした国内外の経済情勢を十分注視し、本港は、北海道のゲートウェイであり、北日本最大の国際拠点港湾として、港湾の機能強化に加え、海外ポートセールスに積極的に取り組むとともに、災害に強い港湾や安心して親しまれる港づくりを進めてまいります。

それでは、新年度の予算について申し上げます。

予算の編成に当たりましては、苫小牧港の港づくりに向け事業の優先度を十分考慮いたしました。

平成28年度の当初予算は、一般会計54億1,606万7,000円、特別会計29億75

9万2,000円、合計83億2,365万9,000円と提案させていただきます。

この各会計予算と関連議案につきましては、後ほど担当より説明をさせていただきます。

次に、平成28年度において取り組む主な施策について、順次説明させていただきます。

まず1つ目は、港湾機能の強化でございます。

苫小牧港の港湾計画につきましては、現在、国内外の物流戦略の動向など港湾を取り巻く環境の変化等への対応とともに、東西両港区における港内静穏度の向上や一般貨物船の船型の大型化への対応など、港湾計画の改訂に向けて基礎調査を実施しておりますが、平成28年度から長期構想、各施設計画の検討を鋭意進めてまいります。

西港区本港地区におきましては、安全でより効率的なRORO船の荷役に対応するため、引き続き西ふ頭の施設改良を行っており、平成29年度の供用開始を目指し、3つ目の岸壁改良を推進し、本港地区におけるRORO船ターミナルの再編を進めてまいります。

東港区の国際コンテナターミナルにつきましては、コンテナ荷役の効率化と機能強化に向け、関係者間の連携を図る運営協議会の設置や荷役機械の保守管理を見直してまいります。

また、荷役機械増設の必要性について検討を進めるとともに、ターミナル背後用地の利用促進を図るため、引き続き関係者と協議を進めてまいります。

2つ目は、安心・安全な港づくりでございます。

苫小牧港においては、港湾利用者や臨港地区に立地する企業の就労者が、想定される最大クラスの津波からできるだけ速やかに安全な場所への避難ができるよう、現在、関係機関と連携し、津波避難計画の策定作業中ではありますが、計画策定後は、実効性の向上を図るため、周知や訓練等を実施してまいります。

また、東港区の国際コンテナターミナルの就労者等を津波から守るため、平成29年度の津波避難施設の供用を目指してまいります。

港湾施設の維持管理計画の策定に向け、引き続き臨港道路や護岸、荷役機械、荷さばき地などの点検を行うとともに、民間事業者が所有する港湾施設につきましても、計画が策定されますよう働きかけてまいります。

また、船舶の航行安全や物流等の定時性を確保するため、建設から40年以上経過し、老朽化による機能低下が懸念される防波堤を改修し、港湾機能の維持に努めてまいります。

波浪浸食により海岸線が後退し、住民から不安の声が寄せられている勇払海岸につきましては、防災、減災に向けた対策として、護岸整備が完了したので、平成28年度から既設離岸堤の改良を行い、さらに勇払海岸の浸食対策を進めてまいります。

3つ目は、親しまれる港づくりでございます。

クルーズ客船の寄港時には、官民で構成しております苫小牧クルーズ振興協議会を中心に、歓迎行事や地元物産のPR、観光案内を行ってきたところでございます。

今後も引き続きクルーズ客船の受入環境を整え、積極的な誘致活動に努めるとともに、関係団

体と連携し、より効果的なおもてなしについて検討してまいります。

去年は、キラキラ公園を会場として、新・ご当地グルメグランプリ北海道2015イン苫小牧が開催されましたが、苫小牧港において近年、キラキラ公園では、みなとフェスティバル、漁港区では、苫小牧漁港ホッキまつりなどのイベントが開催され、多くの来場者で賑わうようになっています。

今後も広く親しまれ、様々なイベントで賑わうよう、年間約70万人の乗降客が利用する西港フェリーターミナルやぷらっとみなと市場との連携なども含めて、みなとオアシス苫小牧運営協議会をはじめ、関係団体と連携して取り組んでまいります。

4つ目は、ポートセールスの推進でございます。

近年、経済成長が進展しております東南アジアとの国際物流ネットワークの拡充や、欧州や北米航路の拠点港との結びつきの強化など、苫小牧港の成長に不可欠な取り組みを進めてまいります。

新たな欧州航路として期待されております北極海航路につきましては、地理的に有利な苫小牧港の利用の可能性について、引き続き具体的な貨物の輸送シナリオや効果的な戦略について検討を進めてまいります。

苫小牧港利用促進協議会では、5年連続で海外ポートセールスを展開しており、昨年11月の苫小牧港セミナー・イン・ベトナムにおきましても、本港の優位性をアピールするとともに、こうした経済発展する地域との結びつきを強めることで、港勢拡大に繋げてまいりたいと考えております。

また、海外ポートセールスを通じ、苫小牧港の利用促進に取り組むとともに、各地で進展する道産品輸出拡大の取り組みとの連携に繋げてまいります。

今後さらに、鮮度保持や熟成といった輸送技術の高度化等について注視するとともに、社会実験などの道産品輸出拡大の取り組みと連動した効果的なポートセールス活動に取り組んでまいります。

また、船社等へのトップセールスも実施してまいります。

5つ目は、行財政の改善でございます。

絶えず変化する社会経済情勢や社会要請に的確かつ効率的に対応するため、柔軟で活力のある組織であることが重要であります。港湾施設の適切な維持管理や緊急時対応を強化するなど組織力向上を図ってまいります。

IT技術を活用したシステム改善により、事務事業の効率化を図るとともに、平成30年度での新地方公会計制度の導入を目指すなど、経営の視点を入れた港湾運営を推進してまいります。

以上、平成28年度の港づくりに臨む私の主な施策について、御説明をさせていただきました。

我が国はもとより、北海道においても、人口減少と高齢化が一層進行することが見込まれており、このままでは物流も減少することが予想されます。

こうした中、苫小牧港においても、危機感を持って戦略的に攻めていかなければ、現状の港勢も維持できない時代に入ってきていると認識しておりますので、新たな挑戦に挑む気概で、今後の港湾運営を引き続き行ってまいる所存でございます。

今後とも、議員の皆様、港湾関係者の皆様の御理解と御協力を重ねてお願いを申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

以上です。

○議案第 1 号 苫小牧港管理組合議会の議員等の公務災害補償等に関する条例及び苫小牧港管理組合職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例について

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第 4、議案第 1 号、苫小牧港管理組合議会の議員等の公務災害補償等に関する条例及び苫小牧港管理組合職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

説明を求めます。

専任副管理者、柏葉導徳君。

○専任副管理者（柏葉導徳君） 議案第 1 号、苫小牧港管理組合議会の議員等の公務災害補償等に関する条例及び苫小牧港管理組合職員の退職手当に関する条例の一部改正について御説明申し上げます。

議案等の 1 ページ目を御覧ください。

この議案は、被用者年金制度の一元化等を図るための厚生年金保険法等の一部を改正する法律、いわゆる年金一元化法により地方公務員等共済組合法等が改正されたことに伴い、傷病補償年金等が支給される場合において、同一事由による他の法律に基づく給付との調整に係る規定の整理等を行うものでございます。

なお、施行日は公布の日でございます。

以上で議案第 1 号の説明を終わらせていただきます。

御審議の上、御承認賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（神戸典臣君） これより質疑に入ります。

ただいまの説明に関し、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、反対、賛成の討論はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって討論を終結いたします。

それでは、議案第 1 号について、お諮りいたします。

議案第 1 号を原案のとおり決することに、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(神戸典臣君) 御異議なしと認めます。

よって、議案第1号は、原案のとおり可決されました。

○議案第2号 平成27年度苫小牧港管理組合一般会計補正予算(第2号)について

○議案第3号 平成27年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計補正予算(第2号)について

○議長(神戸典臣君) 次に、議案第2号、平成27年度苫小牧港管理組合一般会計補正予算について及び議案第3号、平成27年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計補正予算については、関連する案件でありますので、一括議題といたします。

説明を求めます。

専任副管理者、柏葉導徳君。

○専任副管理者(柏葉導徳君) 議案第2号、平成27年度苫小牧港管理組合一般会計補正予算及び議案第3号、平成27年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計補正予算について御説明申し上げます。

初めに、議案第2号一般会計補正予算につきまして一般会計補正予算書により御説明申し上げます。

お手元に配付しております議案等の11ページを御覧ください。

第1条でございます。

歳入及び歳出それぞれ5億1,350万3,000円を減額し、総額49億5,691万円に補正するもので、当初予算に対し、約8.6%の減となっております。

次に、補正予算の主なものについては、一般会計補正予算に関する説明書の、事項別明細書により御説明申し上げます。

初めに、歳入予算でございますが、21ページを御覧ください。

第1款分担金及び負担金におきましては、2億745万円を減額し、25億4,277万8,000円とするものでございます。

これは、母体である北海道と苫小牧市の負担金について、西港区、東港区合わせまして、北海道は1億378万2,000円、苫小牧市は1億366万8,000円を減額するものでございます。

次に、第3款国庫支出金におきましては、2億3,460万4,000円減額し、3億4,795万3,000円とするものでございます。

これは、社会資本整備事業費及び港湾施設災害復旧費が事業の確定等により減となったことによるものでございます。

次に、第6款繰越金におきましては、平成26年度からの繰越額確定により、西港区、東港区

合わせまして、１億７，３０５万１，０００円増額し、１億７，３０７万１，０００円とするものでございます。

次に、第８款組合債におきましては、２億４，４５０万円を減額し、９億２，８１０万円とするものでございます。

これは、社会資本整備事業費及び港湾施設災害復旧費が事業の確定等により減となったことによりまして、公共事業等債及び災害復旧事業債を減額するものでございます。

次に、歳出予算について御説明申し上げます。

２２ページを御覧ください。

第２款総務費におきましては、３２６万１，０００円を増額し、５億４，７９２万１，０００円とするものでございます。

これは、主に職員退職に伴う退職手当の増などによるものでございます。

次に、第４款港湾建設費におきましては、４億９，１７６万１，０００円を減額し、１３億２，１２８万９，０００円とするものでございます。

これは、国直轄事業費負担金及び社会資本整備事業費が事業の確定等により減となったことによるものでございます。

次に、２３ページを御覧ください。

第５款公債費におきましては、１，２９５万７，０００円を減額し、２１億２，３２４万４，０００円とするものでございます。

これは、平成２６年度借入額及び利子の確定により減となったことによるものでございます。

次に、第６款諸支出金におきましては、６８５万１，０００円を増額し、６億１，５８６万１，０００円とするものでございます。

これは、特別会計への繰出金の増によるものでございます。

次に、第８款災害復旧費におきましては、１，８８９万７，０００円を減額し、２，６７８万７，０００円とするものでございます。

これは、港湾施設災害復旧費が事業の確定等により減となったことによるものでございます。

以上、議案第２号につきまして御説明申し上げます。

引き続きまして、議案第３号港湾整備事業特別会計補正予算につきまして、港湾整備事業特別会計補正予算書により御説明申し上げます。

議案の３３ページを御覧ください。

第１条でございます。

歳入及び歳出それぞれ１億１，６４４万９，０００円を減額し、２７億１，０７６万４，０００円に補正するもので、当初予算に対し、約４．１％の減となっております。

補正予算の主なものについては、港湾整備事業特別会計補正予算に関する説明書の、事項別明細書によりまして御説明申し上げます。

初めに、歳入予算でございますが、41ページを御覧ください。

第1款使用料及び手数料におきましては、9,300万円を増額し、11億2,313万円とするものでございます。

これは、西港区、東港区の荷さばき地及び東港区の冷凍コンセントの利用増などによるものでございます。

次に、第2款繰入金におきましては、一般会計からの繰入金を685万1,000円増額し、6億1,586万1,000円とするものでございます。

次に、第4款組合債におきましては、2億1,630万円を減額し、9億200万円とするものでございます。

これは、西港区中央北ふ頭の用地造成の事業費減及び資本費平準化債の借入額の減によるものでございます。

次に、歳出予算について御説明申し上げます。

42ページを御覧ください。

第1款総務費におきましては、183万1,000円を減額し、3,436万5,000円とするものでございます。

これは、主に人事異動による職員給料等の減によるものでございます。

次に、第3款港湾建設費におきましては、7,000万円を減額し、7億8,172万4,000円とするものでございます。

これは、西港区中央北ふ頭及び東港区中央ふ頭の用地造成工事などの事業費確定によるものでございます。

次に、第4款公債費におきましては、4,461万8,000円を減額し、14億8,123万8,000円とするものでございます。

これは、平成26年度借入額及び利子の確定により減となったことによるものでございます。

以上、議案第3号につきまして御説明申し上げます。

御審議の上、御承認賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） これより質疑に入ります。

ただいまの説明に関し、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、反対、賛成の討論はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって討論を終結いたします。

それでは、議案第2号及び第3号について、お諮りいたします。

議案第２号及び第３号を原案のとおり決することに、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認めます。

よって、議案第２号及び第３号は、原案のとおり可決されました。

○進行の確認

○議長（神戸典臣君） ここで、議事進行の確認がございます。

次に、議案第４号、平成２８年度苫小牧港管理組合一般会計予算について、及び議案第５号、平成２８年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計予算についてについても、一括議題として提出者の説明を求めますが、質疑に関しましては、通告のありました一般質問に、議案第４号及び議案第５号に関連する質問内容もありますことから、日程第５の一般質問の終了後に行いたいと存じますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認め、そのように取り計らいます。

○議案第４号 平成２８年度苫小牧港管理組合一般会計予算について

○議案第５号 平成２８年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計予算について

○議長（神戸典臣君） それでは、議案第４号及び議案第５号について、一括議題として、提出者の説明を求めます。

専任副管理者、柏葉導徳君。

○専任副管理者（柏葉導徳君） 議案第４号、平成２８年度苫小牧港管理組合一般会計予算及び議案第５号、平成２８年度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計予算について御説明を申し上げます。

平成２８年度予算につきましては、国の予算編成等に注視しつつ、苫小牧港に必要となる港づくりを進める中で、施策の重要性を考えながら優先的に配分するとともに、その水準を維持した編成としております。

また、予算の執行に当たりましては、限られた予算の中で、適正かつ効率的な活用を図ることとしております。

それでは、初めに議案第４号一般会計予算につきまして、一般会計予算書により御説明申し上げます。

お手元に配付しております議案の５１ページを御覧ください。

第１条でございます。

歳入及び歳出予算の総額は、５４億１，６０６万７，０００円で、前年度当初予算と比べ、６６５万５，０００円の減となっており、率にして約０．１％減少しております。

続きまして、歳入予算について各款ごとの予算額と、その主な内容につきまして、一般会計予算に関する説明書の、事項別明細書により御説明申し上げます。

63ページを御覧ください。

第1款分担金及び負担金におきましては、26億4,048万4,000円であり、前年度当初と比べ、1億974万4,000円、約4.0%の減となっております。

これは、母体である北海道及び苫小牧市からの負担金であり、西港区、東港区合わせて北海道は14億9,796万2,000円、苫小牧市は11億4,252万2,000円でございます。

次に、64ページを御覧ください。

第2款使用料及び手数料におきましては、9億5,472万6,000円となっており、前年度当初と比べ、386万1,000円、約0.4%の増となっております。

これは、入港料、岸壁や港湾施設用地等の港湾施設使用料などの収入であり、今年度の収入実績を十分に考慮したものでございます。

次に、66ページを御覧ください。

第3款国庫支出金におきましては、5億4,084万円であり、前年度当初と比べ、352万6,000円、約0.6%の減となっております。

これは、国の社会資本整備総合交付金であり、減額の主な要因は、西港区第1船溜物揚場工事や東港区周文ふ頭道路改良の事業費減などによるものでございます。

次に、69ページを御覧ください。

第8款組合債におきましては、12億6,540万円であり、前年度当初と比べ、1億230万円、約8.8%の増となっております。

これは、国の直轄事業、社会資本整備事業の実施に要する管理者負担分に係る起債であり、増額の主な要因は、国直轄事業の西港区西ふ頭岸壁改良や社会資本整備事業の東港区勇払浜離岸堤改良の事業費増などによるものでございます。

次に、歳出予算について御説明申し上げます。

70ページを御覧ください。

第1款議会費におきましては、995万8,000円となっております。

次に、71ページを御覧ください。

第2款総務費におきましては、5億8,786万8,000円となっており、前年度当初と比べ、4,320万8,000円、約7.9%の増となっております。

本年は、記念事業関連の予算はありませんが、退職手当の増などによるものでございます。

次に、74ページを御覧ください。

第3款港湾管理費におきましては、3億3,526万6,000円であり、前年度当初と比べ、4,185万4,000円、約14.3%の増となっております。

これは、港湾施設に係る維持管理に要する費用であり、増額の主な要因は、苫小牧港港湾計画

改訂調査業務や西港区晴海ふ頭岸壁エプロン舗装の事業費増などによるものでございます。

次に、75ページを御覧ください。

第4款港湾建設費におきましては、19億922万円であり、前年度当初と比べ、9,617万円、約5.3%の増となっております。

これは、国の直轄事業、社会資本整備事業に要する費用であり、増額の主な要因は、国直轄事業の西港区西ふ頭岸壁改良、社会資本整備事業の東港区勇払浜離岸堤改良の事業費増などによるものでございます。

次に、77ページを御覧ください。

第5款公債費におきましては、19億3,876万2,000円となっており、前年度当初と比べ、2億125万4,000円、約9.4%の減となっております。

これは、組合債の償還に要する費用であり、償還額の減によるものでございます。

次に、第6款諸支出金におきましては、6億3,249万3,000円であり、前年度当初と比べ、1,331万円、約2.1%の増となっております。

これは、特別会計への繰出金の増によるものでございます。

以上、議案第4号につきまして御説明申し上げます。

引き続きまして、議案第5号港湾整備事業特別会計予算でございます。

港湾整備事業特別会計予算書により御説明申し上げます。

港湾整備事業特別会計には、地方財政法等に基づく港湾整備事業に関わる経費を計上しております。

最初に、91ページを御覧ください。第1条でございます。

歳入及び歳出予算の総額は、29億759万2,000円で、前年度当初予算と比べ、8,037万9,000円の増額となっており、率にして約2.8%増加しております。

続きまして、歳入予算について各款ごとの予算額と、その主なものにつきまして、港湾整備事業特別会計補正予算に関する説明書の、事項別明細書により御説明申し上げます。

101ページを御覧ください。

第1款使用料及び手数料におきましては、10億9,429万9,000円となっており、前年度当初と比べ、6,416万9,000円、約6.2%の増となっております。

これは、上屋、荷さばき地、荷役機械、冷凍コンセントなどの使用料収入でございまして、今年度の収入実績を十分考慮したものでございます。

次に、103ページを御覧ください。

第2款繰入金におきましては、6億3,249万3,000円となっており、前年度当初と比べ、1,331万円、約2.1%の増となっております。

これは、一般会計からの繰入金の増によるものでございます。

第3款諸収入におきましては、930万円となっており、前年度当初と比べ、5,030万円、

約 84.4%の減となっております。

これは、消費税の還付額の減によるものでございます。

次に、104ページを御覧ください。

第4款組合債におきましては、11億7,150万円となっており、前年度当初と比べ、5,320万円、約4.8%の増となっております。

これは、ふ頭用地造成事業の実施に係る事業債であり、増額の主な要因は、西港区南ふ頭用地造成の事業費増などによるものでございます。

次に、歳出予算について御説明申し上げます。

105ページを御覧ください。

第1款総務費におきましては、6,055万9,000円となっており、前年度当初予算と比べ、2,436万3,000円、約67.3%の増となっております。

増額の主な要因は、消費税の納付額の増などによるものでございます。

次に、107ページを御覧ください。

第2款港湾管理費におきましては、4億5,340万1,000円となっており、前年度当初と比べ、4,096万4,000円、約9.9%の増となっております。

これは、上屋、荷さばき地などの施設運営に係る光熱水費や荷役機械等の維持管理に要する費用であり、増額の主な要因は、荷役機械整備の事業費増などによるものでございます。

次に、109ページを御覧ください。

第3款港湾建設費におきましては、9億5,723万4,000円となっており、前年度当初と比べ、1億551万円、約12.4%の増となっております。

これは、ふ頭用地造成事業に要する費用であり、増額の主な要因は、西港区南ふ頭用地造成や西港区中央北ふ頭上屋新設の事業費増などによるものでございます。

次に、111ページを御覧ください。

第4款公債費におきましては、14億3,539万8,000円となっており、前年度当初と比べ、9,045万8,000円、約5.9%の減となっております。

これは、港湾整備事業債などの償還に要する費用であり、減額の主な要因は、償還額の減によるものでございます。

以上、議案第5号につきまして御説明申し上げます。

御審議のほど、御承認賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○一般質問

○議長（神戸典臣君） 次に、日程第5、一般質問の通告が、越川慶一君、藤田広美君からありますので、順次これを許します。

越川慶一君。

○議員（越川慶一君） それでは、通告に従い、質問をいたします。

最初に、港湾機能の強化といたしまして、港湾計画についてお聞きをいたします。

港湾機能の強化に向けては、現在の港湾計画に基づき、計画的に整備が進められているというふうに認識をしておりますが、この現在の港湾計画に対する、まずはこれまでの整備状況についてお伺いをしたいと思います。

次に、現在の港湾計画については、平成19年に改訂した内容であります。今後は更なる機能強化に向けた取り組みが求められるものと認識をしております。そのような状況下において、現在は次期の港湾計画の改訂に向けて基礎調査が進められており、平成28年度からは長期構想、各施設計画の検討について進めていくということも考えられていると思いますが、次期港湾計画の策定に当たり、長期構想との関連性や整備スケジュールなど、具体的にどのように進めていこうと考えているのか、見解をお伺いいたします。

また、次期港湾計画の改訂については、国内外の物流戦略が大変重要になるというふうに思われますし、港湾管理者の岩倉市長も、これからの港湾は戦略の時代という言葉をさまざまな場面で発信をしておりますが、具体的な港湾の戦略について、港湾管理者の岩倉市長の考えをお伺いしたいと思います。

次に、安全・安心な港づくりといたしまして、港湾BCP、業務継続計画について質問をいたします。

現在の港湾BCPについては、地震、津波による災害を想定したものであり、火山噴火による災害を想定したのではなく、昨年7月の本会議におきましても質問をさせていただき、議論をしたところではあります。

その質疑の中では、今年度末までに樽前山噴火に対応する港湾BCPを策定する予定であるという答弁がありましたので、現在の策定状況について、まずはお伺いをしたいと思います。

そして、樽前山噴火に対応する港湾BCPの策定に当たっては、どの程度の噴火規模、これを想定しておられるのかも、併せてお伺いをいたします。

更に、港湾BCP策定後には、検証作業も実施されていくものというふうに考えますし、その際には、状況によって一部を見直すなどの改訂作業も必要になってくると、そういう可能性もあるというふうに考えますけれども、例えば1年間の検証を行った後に改訂を行うなど、改訂する周期についてどのような考えをお持ちなのか、見解をお伺いしたいと思います。

次に、津波避難対策における津波避難計画について質問をいたします。

津波避難計画については、平成27年度に策定をされる予定であるというふうにお聞きをいたしましたので、確認の意味で、現在の進捗状況についてお伺いをしたいと思います。

また、このたび、国際コンテナターミナルにおける就業者等が避難できるよう津波避難施設を整備し、平成29年度の供用開始を目指していると、そういうようなことでありますけれども、

想定される避難者数などを含めた施設数や規模、更には具体的な整備のスケジュール、これについても伺いをいたします。

加えて、今後はこの津波避難施設を分散配置する計画や西港などにも設置をしていくことが検討されないのか、この部分についても見解をお伺いしたいと思います。

次に、ガントリークレーンの故障及び事故時等のリスク低減方策について質問をいたします。

昨年は、度重なるガントリークレーンの事故などによって、これまでの保守体制や予備品の整備などについて、考え方を改めるきっかけにもなった1年ではないのかというふうに考えております。

これまでの本会議の中でも議論をしてきたところではありますが、新年度の保守体制の見直しや予備品の整備等についてどのような検討がなされ、今後実施をしていくのか、検討結果について伺いをしたいと思います。

また、具体的にいつから新しい保守体制を導入するのか、更に予備品の整備についても、どのようなスケジュールで進められるのかについてお聞きをしたいと思います。

ガントリークレーンの予備品の整備については、今後も計画的に進められ、故障及び事故時等のリスク低減に繋げていくことが重要であるというふうに私は考えておりますので、優先順位をつけながら、具体的な予備品の整備計画を策定すべきというふうに考えますが、この部分についての見解もお伺いをしたいと思います。

次に、ポートセールスの推進について、ポートセールスの成果と今後の展開について質問をいたします。

ポートセールスについては、これまでもいろいろな場面を活用しながら、港のPRなどを含めて実施されてきたところでありますが、私たち市民にとっては、このポートセールスによって、苫小牧のみならず、広くは北海道内において、どのような成果に繋がっているのか、なかなか伝わりにくい部分なのではないかというふうにも感じておりますので、初めに、これまでのポートセールスによる具体的な成果について、見解をお伺いしたいと思います。

また、このポートセールスの推進については、平成28年度の主要施策にも示されておりますが、それがすぐに目に見えて効果があらわれてくるものではないというふうに思っておりますので、今後のポートセールスについては、戦略的に進めていかなければ、苫小牧港の発展には繋がらないのではないかとというふうに私も考えているところであります。

今後のポートセールスのあり方や戦略、こういうものの展開などについて、見解をお伺いしたいと思います。

次に、苫小牧港港南地区の交通渋滞対策について質問をいたします。

港南地区の交通渋滞対策については、以前の本会議においても議論をさせていただいたところであり、これまでの検討会の中では、ソフト面やハード面について議論をされているものというふうにも認識をしておりますが、現在の港南地区の交通渋滞対策についての進捗状況、これ

について、まずはお伺いをしたいと思います。

次に、港南地区は、冬季の凍結路面によって交通事故が発生している状況にもあります。平成25年度には7件、平成26年度には6件、平成27年度にも既に2件の交通事故が発生をしている。早急に対処すべき優先順位が高いものであるというふうに私は考えております。

前回の本会議においても、対策を検討するという答弁を受けておりましたので、3ヵ月が経過をしたところでありますから、具体的な冬季凍結路面における交通事故防止に向けた対策についてお伺いをしたいと思います。

なお、交通事故防止に向けた対策の一つとして、外気温・路面温度・風速などが表示される電光掲示板、こういうものを設置して、ドライバーへの注意喚起及び速度抑制に向けた対策も必要ではないかというふうに考えますので、電光掲示板の設置を提案いたしますが、設置に向けての見解をお伺いしたいと思います。

以上で、1回目を終了いたします。

○議長（神戸典臣君） それでは、答弁を求めます。

管理者、岩倉博文君。

○管理者（岩倉博文君） 越川議員の質問にお答えをさせていただきますが、港湾の戦略についてお尋ねがありました。

私自身が約10年前であります。管理者に就任した最初の御挨拶で、港湾は戦略の時代以来、いろいろなところで港湾を巡る状況に対する私の認識としてお話をさせていただいています。同時に、これは10年前ではなくて、政治の世界に入った15年前、一番最初に、港湾を巡るさまざまな状況の中で、港湾は戦略がキーワードだということを感じたわけでございます。

そういった背景の中で、苫小牧港は、国家的プロジェクト、あるいは時代の要請に対応した整備によりまして、現在では北海道における港湾取扱貨物量の約半分を扱う国際拠点港湾として、苫小牧はもとよりであります。北海道、更には我が国の経済発展に大きく貢献をしているところでございます。

一方で、国内人口の減少、あるいは高齢化が同時進行している中で、北海道産業においても生産規模の調整あるいは縮小など、国内物流の減少が懸念されるところであります。一方で、中国をはじめ、東南アジアの経済発展とともに、道内へも観光客が急増し、道産品への注目も集まっているところでございます。

こうした中、国の港湾戦略や海外への輸出戦略、あるいは北極海航路を巡る動向なども視野に入れながら、これまでのものづくり産業に加えて、食あるいは観光など、北海道の戦略的産業の発展に資する港づくりを進めていくことが重要ではないかと考えているところでございます。

私からは、以上です。

○議長（神戸典臣君） 専任副管理者、柏葉導徳君。

○専任副管理者（柏葉導徳君） 越川議員の御質問にお答えをさせていただきます。

私からは、安全・安心な港づくりとポートセールスの推進についてお答えをさせていただきます。

初めに、港湾BCPでございますが、火山噴火対応の港湾BCPの策定状況についてのお尋ねですが、苫小牧港の背後には、活火山である樽前山を有していることから、火山噴火に対応した港湾BCPを策定することとしており、樽前山火山防災会議協議会の樽前山火山防災計画や苫小牧市地域防災計画の火山災害対策を踏まえ、港湾関係者で構成する苫小牧港港湾BCP協議会において検討を進めております。

これまで樽前山の火山噴火に詳しい専門家に御講演をいただき、火山噴火に対する知識を深めるとともに、火山を抱えた地域の取組状況を参考にしながら、災害や被害の想定、ボトルネック、BCP発動条件、事前対策、災害時行動計画について協議会の中で議論を進めてまいりました。

今年3月の協議会の議論を経て最終的な取りまとめを行った上で、港湾BCP（火山編）を策定する予定であります。

次に、噴火規模の想定と計画の見直しについてのお尋ねですが、樽前山の火山噴火は、大中小の規模の噴火が想定されておりますが、専門家の御意見や協議会の議論を踏まえて、中規模噴火を想定し、検討を進めているところでございます。

また、港湾BCPの見直しについては、事前対策や行動計画など、計画内容を変更する必要性が生じた場合、その都度、見直しをしてまいる考えであります。

次に、津波避難計画の進捗状況についてのお尋ねですが、当港における津波避難計画は、平成25年9月に国土交通省港湾局が策定いたしました港湾の津波避難対策に関するガイドラインに基づき、港湾エリアにおいて、就労者や港湾利用者等が安全に避難できるように対策を講じることが目的としており、現在、当管理組合において、策定作業を進めております。

これまで、津波浸水予測図等の資料収集、避難経路等の現地調査、港湾エリアに立地する企業等に対して避難計画の策定状況や避難ルートの考え方等についてヒアリング調査を実施したところでございます。

さらに、苫小牧市及び厚真町の地域防災計画との整合も図って、緊急避難場所、津波避難施設、津波避難経路等の各項目について検討し、今年度末までに津波避難計画を策定する予定であります。

次に、津波避難施設の検討状況についてのお尋ねですが、この度の津波避難施設につきましては、コンテナターミナルにおける作業従事者、約100人を収容できるよう、規模を検討しているところでございます。

また、整備スケジュールにつきましては、今年度、津波シミュレーションの解析を含め、設置位置や想定される最大クラスの津波に対して耐え得る構造を検討しているところでございます。

今後引き続き、関係者との調整等を行った上で、施設整備を進めることとしており、平成29年度の完成を目指しております。

次に、津波避難施設の配置についてのお尋ねですが、港湾の津波避難対策に関するガイドラインにおいて、港湾では津波により広範囲に浸水するおそれがあり、津波到達時間までに緊急避難場所等へ避難することが困難であるおそれがあることも想定され、避難困難地域での津波避難施設の確保が重要な避難対策になると示されております。

西港区は周辺を含め10ヵ所以上、勇払マリーナ周辺には3ヵ所の津波避難施設が指定されておりますが、現在、策定作業中であります津波避難計画において、これらの施設配置が適切であるかを確認した上で、必要であれば津波避難施設について検討してまいる考えであります。

次に、ガントリークレーンの保守体制の見直しについてのお尋ねでございますが、先進港での調査の結果、クレーンの状況を日々の確に把握することが重要であることがわかりました。

このため、先進港での取り組み状況やコンテナヤード内の民間が管理する荷役機械のメンテナンス状況などを参考としながら、新年度より、保守点検業者がこれまで行ってきた月例・年次点検に加えて、クレーンの状況を的確に把握するための点検を、新たに検討しているところでございます。

次に、ガントリークレーンの予備品の整備についてのお尋ねでございますが、現在、必要となってくる予備品の洗い出し作業が終了したところでございます。

今後は、過去に発生した事故や故障を踏まえ、最も製作納期がかかる部品の調達を最優先と捉え、また、先進港での予備品のストック状況などを参考とした上で、予備品をそろえていく優先順位を決定し、早期に整備計画を策定してまいります。

なお、現在、各部品の所要額を精査中でありますが、既に一部の予備品については手配済みでありまして、また、新年度においても既に必要な予算は計上させていただいておりますので、最優先となる部品から調達していく考えでございます。

次に、ポートセールスの推進でございます。

初めに、ポートセールスの成果についてのお尋ねですが、これまで国内外のポートセールスを行ってきておりますが、海外では中国やベトナム等、国内では東京でセミナーを開催しており、参加いただいた皆様に苫小牧港をPRし、理解を深めていただいております。このセミナーには当港を利用されているお客様をはじめ、関係業界から多くの方に参加していただいております。日ごろの感謝をお伝えするとともに、更なるビジネス交流につながってきているものと認識しております。

また、国内トップセールスでは、苫小牧港を利用していただいている船会社や関係企業を訪問させていただき、本港に対する御意見や御要望等を直接お聞きし、港湾運営や整備の参考にさせていただいております。

ポートセールスは、船舶や貨物の増加に即座に効果が期待できるというものではございませんが、継続して実施することにより認知度を高め、相互の理解と交流が深まり、今後の利用拡大につながるものと考えております。

次に、ポートセールスのあり方や戦略的な展開についてのお尋ねでございますが、これまで苫小牧港利用促進協議会が中心となったポートセールス活動を通じて、本港の優位性やPRを行ってまいりましたが、管理組合としては、ポートセールス活動を進めながら、民間の課題の把握や活動を支援していくことが重要であると認識しております。

具体的には、今後、民間企業の経営戦略の中で、輸出入貨物の拡大や新たな販路、取引先の開拓などについての課題を認識しながら、こうした民間の活動を支援し、課題の解決につながるよう、官民一体となってポートセールスに取り組んでまいりたいと考えております。

また、今後の日本を取り巻く世界経済の状況は厳しいものではあります。経済成長が進展しているアジアを中心として、経済や人の交流が更に活発化する中で、北海道の可能性や苫小牧港が存在感を高め、しっかりとつながりを確保していけるよう、確かな戦略を持ってポートセールスに取り組んでまいりたいと考えております。

さらには、北海道や関係企業・団体が推し進めております道産食品輸出拡大や各種の企業誘致活動、相談会などとの連携を図るなど、苫小牧港の今後の発展に向けた取り組みを戦略的に進めてまいりたいと考えております。

私からは、以上であります。

○議長（神戸典臣君） 施設部長、尾崎精一君。

○施設部長（尾崎精一君） 越川議員の御質問にお答えさせていただきます。

私の方からは、港湾計画の話と、港南地区の渋滞対策について御説明の方をさせていただければと思います。

まず、現港湾計画に対する整備状況についてのお尋ねですが、現港湾計画の中では、主な取り組みとして、物流、交流、環境、安全の4つの大きな方針に基づいて整備を進めており、物流機能につきましては、東港区中央ふ頭岸壁2バースの整備を行うとともに、ガントリークレーン3基を設置し、背後コンテナヤードの整備も進めるなど、国際コンテナターミナルの機能強化を図っております。

また、RORO船の利用に対応した西港区本港地区の西ふ頭3バースの改良を進め、うち2バースについては既に供用開始し、残り1バースについても、平成29年度には完成を予定しております。

更に、臨港交通機能の確保のため、東港区中央ふ頭幹線と西港区西部中央2号線が平成26年度末に供用開始しており、現在、西部中央1号線の整備を進めております。

交流、環境につきましては、平成25年3月にキラキラ公園を全面的に供用開始し、大型のイベントやクルーズ船寄港時の歓迎・交流場所として利用していただいている状況です。

安全機能に関しましては、大規模地震における港湾機能の確保のため、東港区、西港区にそれぞれ耐震強化岸壁1バースを供用しております。

また、そのほかにも漁船等の安全かつ効率的な利用のため、漁船対応の船溜の整備拡張を行い、

既に供用しているという状況でございます。

続きまして、次期港湾計画のスケジュールなどの進め方についてのお尋ねですが、港湾計画を策定するに当たり、概ね30年から40年先の苫小牧港のあるべき姿を示す苫小牧港長期構想というものをまとめるとともに、この構想に基づいて、目標年次を10年から15年先とする港湾計画を策定することとなります。

平成28年度から、長期構想を検討する委員会を開催し、委員の皆様方から御意見をいただくこととしておりまして、この委員会の中で検討されたものを、港湾管理者である苫小牧港管理組合が港湾計画の案として取りまとめ、関係機関との調整、地方港湾審議会の議を経て地元案として取りまとめた後、国土交通大臣の審査、交通政策審議会の議を経て、新たな港湾計画を策定することになります。

港湾計画の策定に要する期間は、平成28年度から本格的に着手いたしますが、概ね3年程度を見込んでいる状況でございます。

続きまして、港南地区交通渋滞の検討会の議論と進捗状況についてのお尋ねですが、港南地区の交通渋滞の課題解決に向け、昨年5月から、学識経験者や行政関係者、港湾関係者による苫小牧港港南地区交通渋滞対策検討会において、検討を進めてきたところでございます。

この検討会はこれまで3回行われまして、現状交通の課題などの抽出や、交通シミュレーションによる渋滞分析等の議論を経た後、交差点部の車線増設と信号機の周期調整による対策案が、渋滞解消に向けて効果的であるということが示されました。

この結果を、今年の3月に行われる4回目の検討会において、最終的に取りまとめた上、平成28年度より交差点の改良工事に着手する予定でございます。

続きまして、港南地区の冬季路面における交通事故防止の対策についてのお尋ねですが、これまでの冬季路面の管理につきましては、夕方の路面状況と翌朝の気温を勘案し、路面凍結が予想される場合には、凍結防止剤を散布しており、さらに、滑り止めとして砂も散布しているところでございました。

今年度からは、本検討会の議論を踏まえ、凍結防止剤が効果を発揮する散布のタイミングや、気温がさらに低いときに効果を発揮する砂の散布を行うなど、これまで以上にきめ細かく、より効果的な冬季路面对策を行っているところでございます。

続きまして、ドライバーへの注意喚起等についてのお尋ねですが、交通事故の防止に向けた対策の一つとして、御提案いただいた電光掲示板の設置も含め、どのような注意喚起の手法があるのか、3月の検討会の中で議論した上で、検討してまいりたいと考えております。

私からは、以上です。

○議長（神戸典臣君） 越川慶一君。

○議員（越川慶一君） それでは、再質問をいたします。

最初に、港湾計画についてでありますけれども、先ほど、これまでの整備状況として、主な取

り組みについて答弁をいただいたというところであります。現時点においても、計画には盛り込まれてはいるけれども、実現していない、そういう計画もあるんじゃないかというふうに思っておりますが、今後この実現をしていない計画については、どのように整備を進めていこうというふうに考えているのか。そして、今後改訂される次期整備計画に盛り込まれていく、そういうようなものなのか、見解をお伺いしたいというふうに思います。

今後、さらなる機能強化に向けた取り組みとしまして、現在、基礎調査も進められているということでもありますけれども、それでは、平成28年度は具体的にどのような検討をしていくのかというところについても、お聞きをしたいというふうに思います。

そして、港湾の戦略について、先ほども答弁をいただきましたけれども、近年の一般貨物船の大型化に対応するための整備、こういうようなものも、やはり必要性もあるというふうに思いますし、一方では、人口減少時代に対するコンテナ数の減少、こういうようなものもイメージされているというふうに思いますので、10年後、20年後、この苫小牧港がどのような戦略によって強化をされていくのか、もう少し具体的な港湾の戦略イメージ、こういうものを教えていただきたいというふうに思いますので、見解についてお伺いをしたいと思います。

次に、港湾BCPの関係についてでありますけれども、現在、3月の協議会を経て、最終的な取りまとめを行うということで、港湾BCPの火山編を策定する予定というような答弁でありました。

現在の検討されている中で、災害規模をどのように策定をしてということでお聞きをいたしましたけれども、火山灰の降灰対策、これについてはどのように対応をしていこうと考えているのか、この部分についてお伺いをしたいと思います。

さらに、港湾BCP策定後の周知方法についてもお伺いをしたいと思います。

これも策定後、市民、それから関係企業を含め、どのような考えがあるのか、この部分についてもお聞きをしたいというふうに思いますし、港湾BCP策定後の評価・検証、これの見直しなどについてもどのように行っていくのか、この部分についても見解をお伺いしたいと思います。

津波避難計画についても、再度質問をいたします。

今年度末までに策定をされるということでもありますけれども、この津波避難訓練、こういうようなものも、実施について具体的な計画というものもされていないのか、この部分についてお伺いをしたいと思います。やはり実際に訓練を行うことで、実効性が上がってくるというふうに思っておりますので、この部分についての考えもお伺いをしたいと思います。

さらに、津波の避難施設についてでありますけれども、平成29年度の完成を目指すということでありました。

100名の収容を見込むということでもありますけれども、これは、災害が長期化をした場合、例えばですけれども、食料ですとか水ですとか飲料水、毛布、こういうような備蓄品の整備、こういうようなものも考えられているのか。さらには、例えばですけれども、トイレの設置、こ

というようなものも検討されているのか、具体的にもう少しどのような施設になるのかという中身についても、見解をお伺いしたいというふうに思います。

それから、東港以外の津波避難施設については、現在の策定中の津波避難計画ができ上がり次第、必要があれば検討するというような答弁でありましたけれども、現在、指定をされている津波避難施設で対応できない場合、これは、適切な場所に避難施設を設置していく方向性というふうに考えてよいのか、見解をお伺いしたいと思います。

続きまして、ガントリークレーンの保守体制についてでありますけれども、先進港の調査結果からクレーンの状況を日々確認する、日々の確に把握をするということが重要だということで、新年度から新たな点検を検討しているというようなことでありますけれども、これは、新年度ということでもありますから、4月1日からのスタートでいいのか、こういう解釈でいいのか、見解をお伺いしたいというふうに思います。

さらに、ガントリークレーンの予備品の整備についてでありますけれども、最優先となる部品から調達をしていくと、そういうようなことでありますが、具体的にどのような部品をストックしていこうというふうに考えているのか、まずお聞きをしたいというふうに思います。

また、現在も消耗が激しい部品などをストックをしている、そういう状況でありますけれども、そのストックをしている倉庫、これについても、現段階においては、狭い状況にもなっているのかなというふうに思います。倉庫の新設、または増設も行わなければならない状況にあると思いますので、大型の部品をストックする場合には、例えば移動する際のクレーン、こういうようなものも設置しなければならないというふうに思いますけれども、さまざまな検討が必要ではないかと考えますので、倉庫の新設、または増設、これについての考え方、見解についてもお伺いしたいと思います。

次に、ポートセールスについてでありますけれども、先ほど具体的な成果についても質問をさせていただいたところでありますが、答弁の中では、即座に効果が期待できるものではない、さらに継続して実施するということで認知度を高める、そして今後の利用実態につながるというふうに考えている、こういうような答弁があったかなというふうに思います。

私もこのポートセールスについては、やはりしっかりとした戦略、これが重要になってくるというふうに考えておりますし、1度や2度のポートセールスによって、船舶や貨物の増加につながるものではないというふうに考えておりますし、今後の苫小牧港の発展に向けましては、北海道はもとより、近隣市町村とも連携をしながら、そして丁寧な営業活動と言ったらいいのか、あれですけれども、そういうようなことも取り組むこと、さらにはフォローアップ、こういうようなものも取り組むことが必要ではないかというふうに考えておりますので、もう少し具体的に戦略的なポートセールスをどのように考えているのか。そして、新年度は具体的に地域や港をピンポイントでターゲットを絞る、こういうようなことも必要なのかなというふうに考えますけれども、もう少し具体的なポートセールスの戦略について、見解をお伺いしておきたいと思います。

続いて、港南地区の交通渋滞対策についてでありますけれども、最終的には3月に行われる検討会で取りまとめるということで、平成28年度から交差点の改良工事に着手をすると、そのような答弁でありました。

先ほどの答弁の中でも、工事内容というふうに、改良工事に着手するということでありまして、この工事内容というのが具体的にどういう工事内容を示しているのか、もう少しお伺いをしたいと思います。

さらに、この交差点の改良工事について、想定されるスケジュール、どのようなスケジュールで進められていくのか、この部分についてもお伺いをしたいと思います。

それから、冬季路面の交通事故防止対策についてでありますけれども、凍結防止剤の散布のタイミング、砂の散布について、これまで以上にきめ細かくと、そして効果的な対策を行っている、というような答弁がありました。この散布方法についても、もう少し具体的にお伺いをしたいと思います。効果的というふうには言われておりますけれども、もう少し中身が見えてこない、なかなかわかりづらいところがありますので、この部分、具体的にどう進められているのか、実施しているのか、お聞きをしたいというふうに思います。

それから、ドライバーへの注意喚起ということで、これについては、先ほど電光掲示板という提案もさせていただきましたし、答弁の中でも、検討会でいろいろ検討がされるということでありましたので、まずは私も、そもそもは交通事故、これを減らす、なくすと、そういうことが目的でありますので、その一つの方策として、こういうドライバーへの注意喚起というのも提案をさせていただいたところであります。この部分については、しっかりと検討会の中でいろいろ比較をしていただいて検討を進めていただいて、ぜひとも実現をしていただきたいなというふうに思いますので、ここは最後は要望にしたいというふうに思います。

以上、質問を終了いたします。

○議長（神戸典臣君） 答弁を求めます。

管理者、岩倉博文君。

○管理者（岩倉博文君） 越川議員の再質問にお答えをいたしますが、やはり港湾戦略を考える前提として、今、そしてこれからの日本経済、あるいはアジアの経済、そして世界の経済がどうなるかということに対する認識を共有化することが前提となります。

そういった観点から、苫小牧港における港湾戦略というものを考えましたときに、やはり人口減少、高齢化が同時進行し、基本的には日本経済のパイが収縮する、収縮した中で、一番影響を受けるのは、物流と私は捉えていまして、それは海上輸送だけではなくて、空も陸も含めて、そのようなトレンドの中に入っている。苫小牧港は現状ドメスティックでは日本一の取扱量でずっと推移をしています。しかし、国内ではトップでありながら、全体の港湾順位では、4位ないし5位を行ったり来たりしているのが、ここ数年の経過でございます。

ウイークポイント、つまり外貨に対して、どうこれから向き合っていくのかということが、苫

小牧港の課題ということで、5年前からアジアを中心にポートセールス活動に熱心に取り組んでいるところでございます。

一方で、最近インバウンドが増え、北海道でも、先ほどの答弁にもありますが、道産品の輸出戦略について、具体的に様々苫小牧港でも21世紀ビジョンの中で、そういった社会実験を取り組む時代に入ってきています。

そういうこと、時代のトレンドと苫小牧港の戦略というものを、少なくとも一致させながら、そこを苫小牧港の港勢拡大のためにいかに結びつけていくのかということが、大変重要な局面になっているというふうに考えていまして、そういう意味では、今ちょうど北海道を取り巻くそういう、特にアジアの皆さん方の入りが多くなっている、あるいは東南アジアの発展途上国に対する荷の出入りも、少しずつではありますが、今増えているという状況にあります。そういった傾向を、どうやったら苫小牧港がキャッチできるのかということ、外に向けた戦略、そして機能強化における、あるいは使いやすい港湾をどうやって知恵を出して作っていくのかということが、今問われているんだと思います。

そういう意味で、今は苫小牧港の港湾戦略に合致した的確な投資、あるいはそれは外向けだけではなくて、港管理組合自身の意識改革も含めて、今取り組んでいかなければならない時代、そういうことを総合的に戦略という言葉で表現しているというふうに御理解いただきたいと思います。

○議長（神戸典臣君） 専任副管理者、柏葉導徳君。

○専任副管理者（柏葉導徳君） 越川議員の再度の質問にお答えをさせていただきます。

私からは、安全・安心な港づくりとポートセールスの推進についてでございます。

港湾BCPの火山編についての再度のお尋ねでございますが、このたびの計画策定に当たり、想定しております中規模噴火でございますが、最大8センチメートル程度の降灰被害を想定し、検討を進めているところでございます。

降灰対策につきましては、鹿児島県の桜島の事例などを参考にしながら、防塵マスクやゴーグルの準備、火山灰の除去方法の検討など、どのような対策が必要となるか、協議会の中で検討しているところでございます。

火山編の港湾BCPの周知については、昨年度策定いたしました地震・津波編と同様に、当管理組合のホームページ上で公開するとともに、立地企業の懇談会の研修等を通じて、周知してまいりたいと考えております。

また、策定後の見直しについては、今後、研修や訓練などを実施し、評価・検証を行うほか、周辺に環境の変化が生じた場合など、必要に応じて、見直しをしてまいりたいと考えております。

次に、津波避難対策について、津波避難訓練の実施についてのお尋ねでございますが、現在策定中の津波避難計画に、避難訓練の実施に関する事項を盛り込む予定でございまして、港湾に立地する企業の皆様に御参加いただき、設定した避難ルートを利用した避難訓練を実施してまいり

たいと考えております。

次に、津波避難施設の備蓄品などについてのお尋ねでございますが、水や食料、毛布などの備蓄品やトイレの設置などについては、今後、地元自治体や関係者と相談してまいりたいと考えているところでございます。

次に、津波避難施設について、現在指定されております津波避難施設に加えまして、企業で設置している避難施設で対応できない場合は、地元関係者と相談した上で、検討してまいりたいと考えております。

次に、ガントリークレーンでございますが、ガントリークレーンの保守体制の見直し時期についてのお尋ねですが、現在4月1日からの実施に向けて、関係者と協議しながら、新たな保守点検の内容と体制につきまして、検討しているところでございます。

次に、ガントリークレーンの予備品についてのお尋ねでございますが、今後取りそろえていく予備品の一例といたしましては、過去に発生した事故や故障の部位において、最も製作納期がかかる部品では、クレーン本体への給電装置であるケーブルリールや、荷役中のクレーンの移動を抑えるレールクランプなどがございます。

そのほか、消耗品としては、コンテナを吊り上げるワイヤーやツイストロックピンなどがございます。

また、保管倉庫についてのお尋ねですが、現在、コンテナターミナル内にガントリークレーンの予備品を保管する倉庫が2棟ございますが、現状のクレーンの予備品に対応した規模で整備されたものでございます。

このため、今後取りそろえていく予備品の保管に必要となるスペースを考慮し、新たな保管倉庫の施設規模を検討してまいりたいと考えております。

次に、ポートセールスにおけます具体的な戦略についてのお尋ねでございますが、これまで、東アジア圏における苫小牧港の認知度を高めるとともに、さらなる相互交流を深め、海外ポートセールスを重点的に実施してまいりました。

今後も、こうした経済成長が進展している地域においてポートセールスを展開していくことが、本港の発展に重要であると考えております。

また、経済成長が進展している東アジア圏をはじめ、世界各国の主要都市で、道内からの企業展開を目指している、あるいは商談会を開催している団体や、日系企業の海外進出を支援する企業等と連携し、これまで以上に積極的なポートセールス活動、これはフォローも含めてでございますが、積極的な活動を展開してまいりたいと考えているところでございます。

私からは、以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 施設部長、尾崎精一君。

○施設部長（尾崎精一君） 越川議員の再度の質問にお答えさせていただきたいと思っております。

まず、現港湾計画で、未着手の施設についてのお尋ねですが、現港湾計画において、未着手の

主な施設といたしまして、弁天ふ頭2バースと周文ふ頭1バースがございます。弁天ふ頭につきましては、石炭などのバルク貨物を取り扱う施設として、周文ふ頭については、RORO船対応の施設として位置づけております。

しかしながら、これまで東港区の国際コンテナターミナル、西港区のRORO船ターミナルの整備を優先しておりましたので、これらのふ頭整備については、実現に至っておりません。

なお、私どもといたしましては、弁天ふ頭及び周文ふ頭の整備の重要性は現在も変わっており、今後も引き続き、その実現に向けて検討してまいりたいと考えております。

続きまして、平成28年度の港湾計画改訂作業の具体的な内容についてのお尋ねですが、平成28年度では、長期構想検討委員会の立ち上げとともに、港湾利用の需要などについて検討を行います。

具体的には、企業のニーズを的確に把握しながら、港湾貨物量や入港船舶隻数、土地利用、フェリーの乗降客などの需要推計を行います。

また、現況の苫小牧港及び周辺道路の交通量などの調査も行うこととしております。

続きまして、臨港地区交通渋滞対策について、具体的な工事内容と整備スケジュールについてのお尋ねですが、交差点部の車線増設に伴う改良工事は、当管理組合が実施主体となり、また、信号機の周期調整については、交通関係機関と実施に向けて検討していく考えでございます。

また、整備スケジュールにつきましては、平成28年度より調査設計に着手し、その後、支障物件調査や用地買収などを経て、現地着工となる予定でありまして、現段階では3年程度の期間を要するものと考えております。

続きまして、冬季路面对策の具体的な手法についてのお尋ねですが、本検討会での議論の結果、凍結防止剤については、散布してから最大限に効果を発揮するのが1時間後であるとのことから、当該路線において、交通量が多くなる通勤時間帯の1時間前に、凍結防止剤を散布することといたしました。

また、凍結路面において気温がマイナス8度以下のときには、より効果を発揮する砂を散布することとしたところでございます。

私からは、以上です。

○議長（神戸典臣君） 以上で、越川慶一君の一般質問を終了いたします。

藤田広美君。

○議員（藤田広美君） それでは、通告に従いまして、質問したいと思います。

まず初めに、港湾機能の強化についてであります。

国際コンテナターミナルの荷役効率化と機能強化に向けて、利用者等と連携を図るための運営協議会が設置をされますが、これは今までとどう変わるのか。また、協議会を設置することによる効果など、設置目的や意義についての考えをお聞かせいただきたいと思います。

また、運営協議会は、官民が一体となった組織体制になると聞いておりますが、その構成メン

バーはどのようになるのか。そして、協議会の具体的な検討内容と今後の方向性についてお示し
いただきたいと思います。

次に、ガントリークレーンについてお伺いをいたします。

去年は、1号機、2号機、3号機と、立て続けにガントリークレーンの損傷があり、船社をは
じめ、関係者に多大な御迷惑をおかけしたと思います。

また、ガントリークレーンの使用停止により、国際コンテナターミナルの信頼性まで損ないか
ねない事態となったわけであります。事故や故障は突発的に起こることは今後もあると思いき
ますが、いざというときのための対応と、故障や事故につながらない日ごろからの点検やメンテナ
ンス、そして部品のストックなどが重要だと思えます。

これらについては、しっかり検討を進めて実施をしていただきたいと思いますと思いき
ますが、使用不能に
なったときの対応としては、やはりガントリークレーンの増設が必要だと思えます。

このガントリークレーンの増設については、去年の議会で2度にわたって質問をさせていた
きました。今まで種々検討してきたと思いきますが、その検討状況はどのようになっているのか。
また、増設をしていくためには、さまざまな課題もあると思いき。その課題とはどのようなこ
とがあるのか、お聞かせいただきたいと思います。

また、設置するとなると、どの場所に設置することが可能なのか。さらには、増設に向けた検
討について、今後のスケジュールも併せてお聞きしたいと思いき。

続きまして、安全・安心な港づくりであります。

津波避難対策についてであります。28年度に国際コンテナターミナルの敷地内に津波避難
施設が設置され、29年度から供用開始となります。設置後の避難訓練についてどのように考
えているのか、お聞かせいただきたいと思います。

また、津波避難計画についてでありますけれども、この津波避難計画は、西港区、東港区、さ
らには勇払マリーナ、漁港区など、それぞれ具体的に地区別に作成をして避難訓練など実施をし
ていくべきだと思いきますが、こういった地区別避難計画の考え方についてお聞かせいただきた
いと思いき。

1回目は、以上です。

○議長（神戸典臣君） 答弁を求めます。

専任副管理者、柏葉導徳君。

○専任副管理者（柏葉導徳君） 藤田議員の御質問にお答えをさせていただきます。

初めに、港湾機能の強化についてでございますが、苫小牧国際コンテナターミナル運営協議会
についてでございますが、これまで、コンテナターミナル内の荷役作業における、さまざまな課
題や確認事項等の協議については、苫小牧港外貿コンテナ事業協同組合や、コンテナ荷役業者か
ら成る作業部会、これは民間のほうですが、この作業部会により行われてまいりました。

しかしながら、去年、議員も御指摘のとおり、ガントリークレーンの損傷が発生したことを受

け、事業協同組合からの提案もあり、コンテナターミナルのより安全で効率的な運営を図ることを目的に、広く他の関連企業も参画した運営協議会を設立するという事になっております。

この運営協議会の内容については、関係者間で現在検討中ではありますが、構成メンバーとしては、当管理組合、事業協同組合、コンテナ荷役業者、施設関連会社、機械メンテナンス会社及び検数事業者で構成する予定でございます。

この協議会では、ターミナル内での作業の安全性の確保や、効率的なターミナル運営などについて協議、検討を行っていただく予定でございます。

具体的には、ガントリークレーンを安全に利用するため、それぞれの荷役会社で作成しております作業手順書、これらを統一したマニュアルにするための検討でありますとか、ヤード内における各種作業機械の保守・保全に関する安全で効率的なルールづくり、あるいは安全対策の検討、こういったものを行っていく予定でございます。

次に、ガントリークレーンの保守体制の見直しについてのお尋ねでございますが、先進港での調査の結果、クレーンの状況を日々の確に把握することが重要であるということがわかったわけでございます。

このため、先進港での取組状況や、コンテナヤード内の民間が管理する荷役機械のメンテナンス状況などを参考としながら、新年度より、保守点検業者がこれまで行ってきた月例・年次点検に加えて、クレーンの状況を的確に把握するための点検を、新たに検討しているところでございます。

次に、保管倉庫についてのお尋ねでございますが、現在、コンテナターミナル内にガントリークレーンの予備品を保管する倉庫が2棟ございますが、現状のクレーンの予備品に対応した規模で整備されたものでございます。

このため、現在検討を進めてまいりました、今後取りそろえていく予備品の保管に必要となるスペース、これが足りなくなるというわけでございまして、その予備品を保管するスペースを、どこにどのように確保するか、こういった課題を検討しながら、新たな保管倉庫の施設規模なども検討しているところでございます。

次に、ガントリークレーン増設の検討状況についてのお尋ねでございますが、増設の必要性の検討に当たりましては、コンテナの取扱量やガントリークレーンの稼働状況などを十分に勘案する必要がありますので、現在、本港のコンテナターミナルの状況について、分析を進めているところでございます。

また、ガントリークレーンの設置につきましては、製作費用や保守点検費用、また、コンテナターミナル内の電気容量などの課題があり、これらについて整理しているところでございます。

来年度は、こうした課題について、関係者の意見などをお聞きしながら、コンテナターミナルの円滑な荷役体制に向けて、検討してまいりたいと考えております。

仮に増設するとなった場合の設置場所につきましては、既設のガントリークレーンの配置など

を考慮した上で、検討することになるものと考えております。

次に、津波避難計画及び避難訓練についてのお尋ねでございますが、苫小牧港の津波避難計画は、東西両港区の広い範囲であることから、エリアごとに避難場所や避難経路について検討しているところでございます。

避難方法は、基本的に徒歩としておりますが、東港区には、近くに避難場所がないことから、車での避難も検討しているところでございます。

また、避難訓練については、こうしたことも踏まえて速やかに避難ができるよう検討し、実施してまいりたいと考えてございます。

なお、国際コンテナターミナルのエリアにつきましても、津波避難施設設置後、速やかにこの計画に盛り込んで、適切に避難訓練を実施していけるよう、検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 藤田広美君。

○議員（藤田広美君） それでは、再質問をさせていただきます。

まず初めに、国際コンテナターミナルの運営協議会についてでありますけれども、今まではさまざまな課題や確認事項などの協議は、作業部会で協議をしてきたと。事業協同組合からの提案によって、広く他の関連企業も参画した運営協議会を設立するとのことでありましたけれども、この運営協議会を設置するメリットについて、もう少し具体的にお示しをいただきたいと思います。

また、作業手順書の統一したマニュアルの作成や、各種作業機械の保守・保全に関する効率的なルールづくりや安全対策の検討を行うということでありましたけれども、いつまでに検討されて作成していく考えなのか。また、運営協議会の開催については、毎月行っていくのかどうか、協議会の開催頻度についてもお聞きをしたいと思います。

続きまして、ガントリークレーンについてでありますけれども、このガントリークレーンの増設は、稼働状況を勘案する必要があると。また、コンテナターミナルの状況を分析しているということでありましたけれども、この増設の必要性については、いつまでに結論を出すのか、28年度中に方向性を示すことができるのか、お聞きをしたいと思います。

また、増設については、費用の面と電気容量などの課題があるとのことですが、この電気容量の課題については、どういう状況なのか、この課題をクリアするためには、どのような取り組みが必要なのか、もう少しこれも具体的にお聞かせいただきたいと思います。

次に、津波避難計画及び避難訓練についてでありますけれども、避難訓練については、速やかに避難ができるように検討して実施をしていくといった答弁でありましたけれども、苫小牧港は各地区によって状況が違うということであります。これは新年度には、各地区において実施をしていくということで理解していいのか。また、国際コンテナターミナルのエリアについては、

29年度からの供用開始でありますので、29年度には避難訓練が実施できるように計画をするということで理解していいのか、再度お聞かせいただきたいと思います。

以上です。

○議長（神戸典臣君） 答弁を求めます。

専任副管理者、柏葉導徳君。

○専任副管理者（柏葉導徳君） 藤田議員の再度の質問にお答えをさせていただきます。

初めに、国際コンテナターミナル運営協議会、この運営協議会を設置するメリットについてでございますが、運営協議会の構成メンバーは、コンテナターミナルでの作業に関わる企業が広く参加されますことから、さまざまな課題や確認事項等の情報について、関係者間で共有化される、あるいは相互の信頼関係が強まる、このような中で課題の解決につながる、こうしたことがメリットになるものと考えております。

次に、統一マニュアルや保守・保全に関するルールづくり、運営協議会の開催頻度についてでございますが、統一マニュアルや具体的なルールづくりの進め方、あるいは運営協議会のあり方につきましては、現在、2月15日に設立される予定であります運営協議会に向けて、関係者間で検討しているところでございます。

私どもといたしましては、できるだけ早く、ガントリークレーンの統一マニュアルの作成を進める必要があるものと考えております。

また、協議会の開催頻度につきましては、総会とその下に具体的な作業を検討する部会を設置する予定であります。現在、民間のほうの作業部会は、月1回程度開催されているとお聞きしておりますが、この総会及び設置される部会、それぞれの開催についても、関係者間と検討しているところでございます。

次に、ガントリークレーンの増設についてでございますが、増設の必要性につきましては、先ほども申し上げましたように、さまざまな課題につきまして、検討していく必要がございますが、来年度中に方向性を示してまいりたいと、このように考えております。

次に、電気容量の課題についてのお尋ねでございますが、国際コンテナターミナルにおける主な電力需要設備といたしましては、ガントリークレーン3基のほか、冷凍電源コンセント、ヤード照明などがございますが、今後のガントリークレーンの増設による使用電力量の増大に伴い、現在の電気容量では不足してくると、こういうおそれがございます。このため、どのような対策が必要となるかについて、検討を進めているところでございます。

次に、避難訓練についてでございますが、避難訓練は、現在、策定中の津波避難計画で検討中でございますが、地元自治体と連携して、港湾エリア全体で実施してまいりたいと考えております。

また、国際コンテナターミナルエリアの津波避難施設設置後の避難訓練につきましては、速やかに行えるよう、実施時期について検討してまいりたいと、このように考えております。

以上でございます。

○議長（神戸典臣君） 以上で、藤田広美君の一般質問を終了いたします。

以上で、一般質問を終了いたします。

これより、議案第4号及び第5号の質疑に入ります。

議案第4号及び第5号の説明に関し、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、反対、賛成の討論はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） なければ、これをもって討論を終結いたします。

それでは、議案第4号及び第5号についてお諮りいたします。

議案第4号及び第5号を原案のとおり決することに、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（神戸典臣君） 御異議なしと認めます。

よって、議案第4号及び第5号は、原案のとおり可決されました。

○閉会

○議長（神戸典臣君） 以上をもちまして、本議会に付議された事件は、すべて議了いたしました。

閉会にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

本議会に付議されました事件は、議案5件であります。皆様方の御協力により、滞りなく議了いたしましたことに、議長として厚く御礼を申し上げますとともに、議員各位の熱心な御審議を得ましたことに、重ねて御礼を申し上げます。

これをもちまして、平成28年第1回定例会を閉会いたします。

御苦労さまでした。

（了）

午後3時21分 閉会

上記のとおり会議の次第を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

苫小牧港管理組合議会

議 長 神 戸 典 臣

署名議員 中 山 智 康

署名議員 藤 田 広 美